

公共交通空白地有償運送を行うにあたり

公共交通空白地有償運送の必要性の判断について

1. 菰野町の公共交通の現状と課題

(1) 三重交通バス・コミュニティバス

三重交通バスの運行は、菰野町の北玄関である田口を起点として四日市間の運行を行っており、また、四日市市桜台を起点とする神森経由の高速バスは、早朝から深夜までの便数があることから、通勤や大学生等の通学者が利用しています。

一方、平成 17 年からコミュニティバスを町内一円で運行していますが、年間利用者は運行当初は、年間約 77,000 人ありましたが、平成 26 年度は約 55,000 人と約 22,000 人減少し、運行費用である委託料は、昨年度決算額で約 4,500 万円（一般財源）となり、今後も利用の少ない路線やバス停の見直しなど効率的な運営が求められています。

このことから、来月（11月2日）に予定する運行見直しでは、朝夕の増便を行い、通勤や通学の利便性を図るなど、利用者の確保に努めています。しかしながら、今以上の町内全ての地区をカバーできるコミュニティバス運行は困難であると判断しています。

(2) 乗合タクシー

懸案となっていた効果的、効率的なコミュニティバスの運行を行うため、平成 22 年に町内にある 2 つのタクシー営業所によるデマンドタクシーの運行という案も検討されましたが、コミュニティバスの利用者から聴き取り調査を行った結果、「予約が困難」、「今のままが利用しやすい」という声が圧倒的に多く、その後、町内のタクシー会社の営業所も 2 社から 1 社と減少したため、デマンド方式は困難と判断し、新たな方針を模索してきました。

(3) タクシー

町内には尾高タクシー（(有)尾高）の営業所があり、11 台のタクシーを配車しています。

菰野町の玄関である近鉄菰野駅前に待機していることから、町外からの来町者や通院や買い物等に利用する高齢者、定期的に医療機関に通院する常連の客もあり、他人には知られたくないためタクシーを利用する方もいると聞いています。

タクシー利用者の声では、「タクシーを依頼しても 30～40 分くらい待たないと来ない」、「朝はタクシーに乗れても帰りには今、予約があり混んでいますから直ぐには行けません」ということもあるようです。

また、通院に往復タクシーを使用すると費用が嵩み生活の負担が増すことから、「生活を圧迫しない交通手段を考えて欲しい」という要望が寄せられていま

す。

当町では、重度障がい者の経済的負担の軽減を図り、社会参加を促進する目的でタクシー料金の助成事業を行っています。9月末現在で申請のあった256人にタクシー券の交付を行っています。

この事業は、移動が困難、働きたくても働けない、経済的に困窮している障がい者に対する福祉施策であることから、他の公共交通が利用でき移動手段が選択できる高齢者に対しては、財政的にもすべての高齢者にタクシー券を助成するという事は難しいと考えています。

一方で、タクシーの配置状況から考察すると、四日市市の高齢者人口は76,122人（本年8月現在、高齢化率24.4%）で、タクシーは三重県タクシー協会の登録数286台、一台当たり換算すると266人となります。同様に当町では高齢者人口が10,151人（高齢化率24.5%）でタクシーは11台、一台当たりでは910人となり、近隣の四日市市と比較すると3.4倍の格差が生じており、相対的に台数が少ない状況にあると言えます。

（4）福祉タクシー

障がいのある方や介護認定者だけでなく、公共交通機関を利用することが困難な方が利用できる介護タクシーがあり、町内に2か所の事業所があります。

主な利用目的は通院であり、町民の利用が多い事業所では月平均約170人、利用の94%が通院であります。

（5）福祉有償運送

障がいのある方や介護認定を受けている方が利用対象者であり、事前に登録し会員となる必要があります。この事業の認定を受けているのは、町内では菰野町社会福祉協議会だけです。車いすを使用している6名の方が通院を目的に登録されています。

2. 町民アンケートの結果

菰野町では、町民のニーズを把握し町政運営に反映していくことを目的に、毎年町民アンケートを実施しています。

昨年6月に実施しました町民アンケートの中に、菰野町が目指すべき社会の状況についての満足意識調査があり、その結果は別紙のとおりであります。公共交通機関の平均点は最下位を占めています。

また、本年当町の将来の人口を展望し、目指すべき方向を明らかにするために取りまとめました「菰野町人口ビジョン」の中（別紙）には、「菰野町から移転したい理由」という項目があり、その中で78.9%を占め一番多かったのは「交通の便が悪い」というものであります。

上記の事から、当町の公共交通の不便さが指摘されておりますが、バス、タクシー等の公共交通機関の運行拡大は望めない状況のため、これまでコミュニティバスを運行してきたところですが、コミュニティバスも年々利用者が減少する中では、更に効率化が求められているところから、今後、高齢者や障がい者を含め

た、いわゆる交通弱者のための新たな移動手段の構築が求められています。

3. 課題解決に向け

当町の高齢者数は1万人を超え高齢化率は24.5%となり、2025年には後期高齢者数が大幅に増加し、介護認定者や医療を必要とする高齢者数が増加することが予測されています。また、介護保険施設の入所や医療機関での看取りが困難になり、在宅医療や在宅生活を維持していくためには、通院や買い物等の移動手段が必要になることから、公共交通の役割は今以上に大きなものとなります。

これらの課題を解決するためには新たな移動手段の構築が必要であり、当町としましては、町社会福祉協議会と連携し住民同士の支え合い社会の実現を目指すため、一部のエリアを先行モデルとして限定し、公共交通空白地有償運送の申請を行いたいと考えています。

実施主体については、既に福祉有償運送を実施している社会福祉法人菰野町社会福祉協議会とし、地域住民の方の移動の実現を目指します。

今回、モデルとして選定しました川北エリアは、地域の住民から「モデル地区として実施してほしい」という要望がありました。コミュニティバスも運行していますが、高齢者が利用したい時間に運行していないことが大きな要因であるようです。また、大羽根園エリアは、地域の高齢者が高齢者を支える体制が出来ており、移動支援の要望が非常に多いことから、有償サービスの提供会員も利用者も待ち望んでいたことから選定を行いました。

菰野町住民参加型移動支援利用者募集要項

【平成 27 年 12 月現在】川北・大羽根園エリア限定

1. 住民参加型移動支援とは

菰野町では、買い物や掃除などちょっとした高齢者等の日常生活支援を、地域住民の助け合いにより行う活動を推進しています。

高齢者や障がいのある方など自分で車を運転できない方の移動支援を地域の住民の協力を得て実施するものです。

2. 利用できる方は（下記の項目をすべて満たしている方）

- ①菰野町に住所を有し現に生活している方
- ②障がいのある方（手帳保持者）又は高齢者（65 歳以上）の方で、自分で車の運転ができない方
- ③事前に登録し会員名簿に記載された方
- ④上記の方で、運営に理解があり運行に協力できる方

3. 運行規定

- ①川北と大羽根園の 2 つのエリアをモデルとして実施する
- ②運行時間は、8 時～17 時までとする
- ③目的地は町内としコミュニティバスの利用に配慮した運行を行う
- ④利用は予約制とし、配車が出来ないときはタクシー等の交通機関を利用する(予約は前日の 17 時までとする)
- ⑤認知症状のある方の利用は、家族や介護者又は支援者の協力を得て予約登録等利用上の問題に対し未然防止に努める

4. 会員の申込み方法

菰野町社会福祉協議会に直接又は電話（FAX）で申し込む

5. 実施予定期間

登録完了後から 2 年間
平成 27 年 12 月実施予定

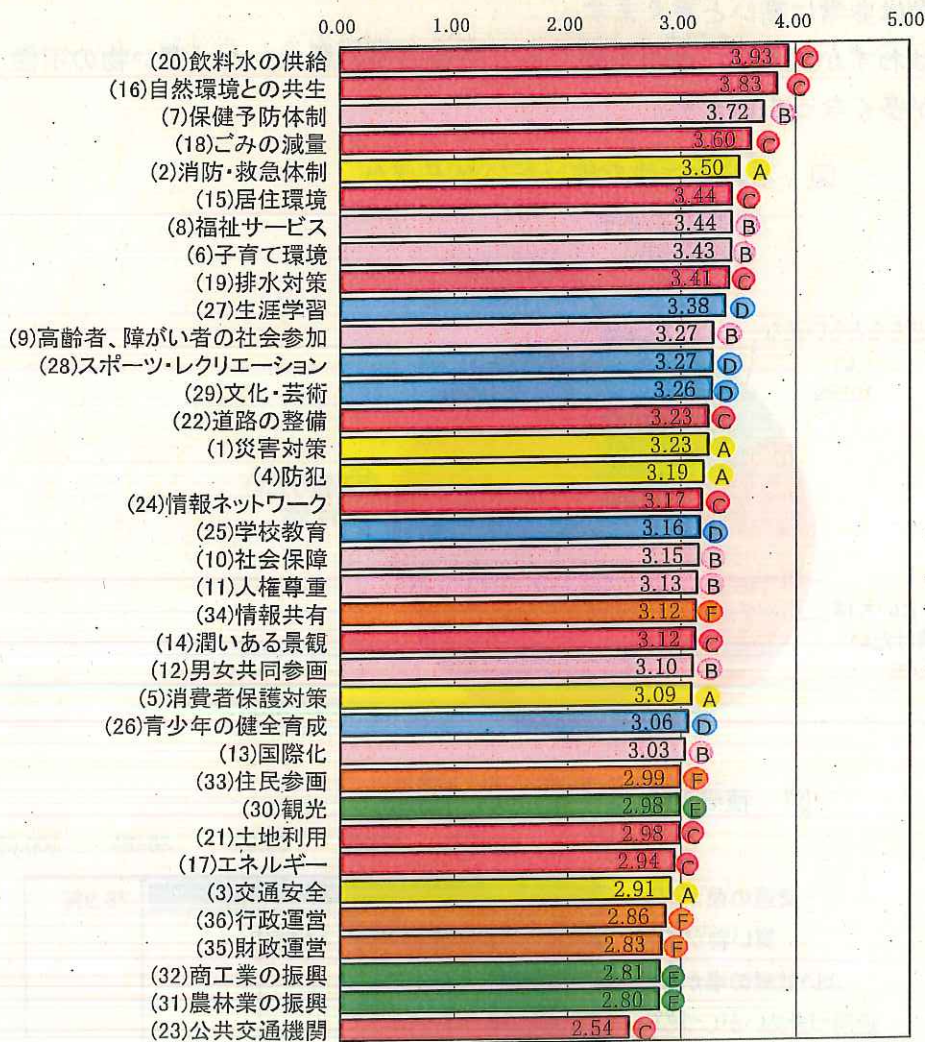
6. お問い合わせ先

菰野町社会福祉協議会 電話 394-1294
菰野町健康福祉課 電話 391-1125

□『菺野町が目指すべき社会の状態』の満足意識について、下記の方法により平均点を算出すると、全体の平均点は3.19点となり、いずれの項目においても小幅な動きに留まった。分野別に見ると、生活安全分野[A]では「(2)消防・救急体制」についての満足度が高いものの、「(3)交通安全」は平均を下回っている。子育て、福祉・健康、人権分野[B]については「(7)保健予防体制」が上位にあり、その他の項目も比較的上位に位置している。環境、都市基盤分野[C]では「(22)道路の整備」のポイントがやや上昇しており、高速道路等の建設の進展が影響しているのではないかと推察される。教育、文化・スポーツ分野[D]の中では「(27)生涯学習」の満足度が50歳、60歳代を中心として最も高くなっている。観光、産業分野[E]ではいずれも平均以下であった。住民参画、行財政分野[F]については、社会全体に対する先行きへの不安等が伺える結果となっている。

菺野町が目指すべき社会の状態についての満足意識 [問3/択一回答]《回答者数592》

現状に対する満足意識(平均点)



※単純比較するため、「非常に満足」を5点、「満足」を4点、「どちらともいえない」を3点、「不満」を2点、「非常に不満」を1点とし、「わからない」などを除いて平均を出したもの
A:生活安全分野 B:子育て、福祉・健康、人権分野 C:環境、都市基盤分野 D:教育、文化・スポーツ分野
E:観光、産業分野 F:住民参画、行財政分野
なお、分野の区分は第5次菺野町総合計画の体系による

Ⅲ 菰野町における人口の将来展望

1 将来展望にかかわる住民意識などの整理

平成 27 (2015) 年 6 月に実施した「町民アンケート」から、人口の将来展望にかかわる住民意識をみることにします。

菰野町に住み続けたいという人(「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」の合計)が 80%以上に上ります。年齢が下がると若干減りますが、20 歳代でも約 75% であり、定住意向は非常に高いと言えます。

移転したい人はわずかですが、理由を聞くと「交通の便の悪さ」と「買い物の不便さ」を挙げる人が多くなっています。

図 菰野町に住み続けたいかどうか

【有効回答数 582】

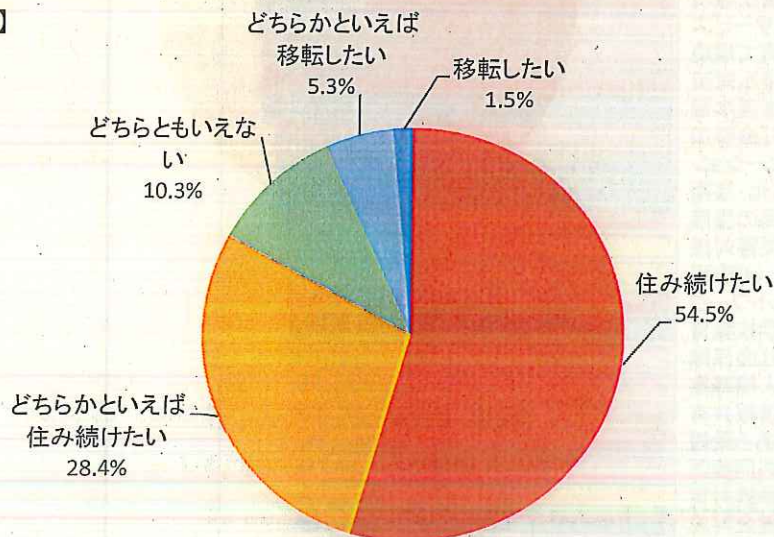
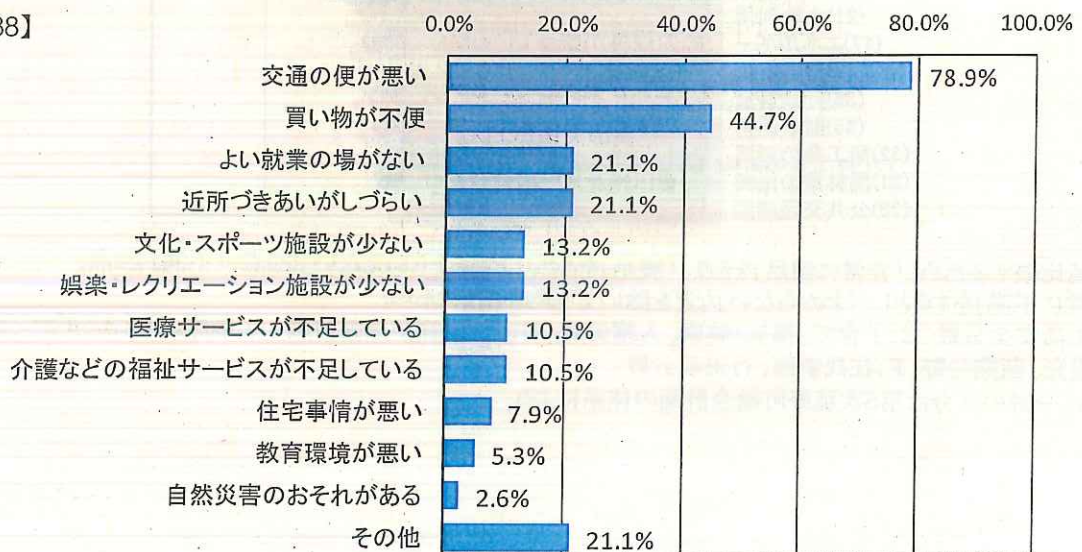


図 菰野町から移転したい理由

【有効回答数 38】



資料：町民アンケート調査結果

送迎用のりあいクルマの利用申請者からの意見・要望

標記について、利用申請者から下記のような意見・要望がありましたので報告します。

記

1 意見

(1) 近くの病院へ行くのにタクシーを利用しますが、帰りのタクシーについては、電話を掛けるといつも「今、予約があり混んでいますから、すぐには行けません」と言われ、仕方なく歩いて帰りますが、体力的にも限界があり、途中休みながら時間を掛けて帰ります。

多分、病院から自宅まで近すぎるため、いつも断られるような気がします。

(2) 趣味の同好会に加入し参加するため、会場の菰野町社会福祉協議会けやきへかもしか号を利用して行きますが、運行便数が少なく不便を感じています。また、タクシーを利用する距離でもないのに、気軽に利用出来る乗り物があると助かりますし、活動の機会も増やす事が出来ます。

(3) 大羽根園公会所で年間を通じて、高齢者を対象にした諸施策やイベントなど開催されますが、歩いていくにも持病があり、歩く事は無理ですからあきらめざるを得ません。時々、友達に声を掛けていただき車に同乗して参加することもあります。もっと参加し皆さんと話がしたいです。

(4) 国民年金で生活しているため、病院へタクシーで行くと生活の負担になります。毎月、通院せずにはいられず困っています。日々の生活のやりくりが大変です。私達のような年金生活者にとっては、生活を圧迫しない交通手段を考えて欲しいです。

2 要望

距離に関係なく、速やかに対応していただき、生活を圧迫することのない気軽に利用出来る「のりあいクルマ」が出来る事を切に願います。

近くにあるスーパー、銀行、墓参りにも行くことが出来、これからの生活移動範囲も広がり、楽しい生活が送れるものと思います。

以上

聴取者： いいね！大羽根地域まごころサポート